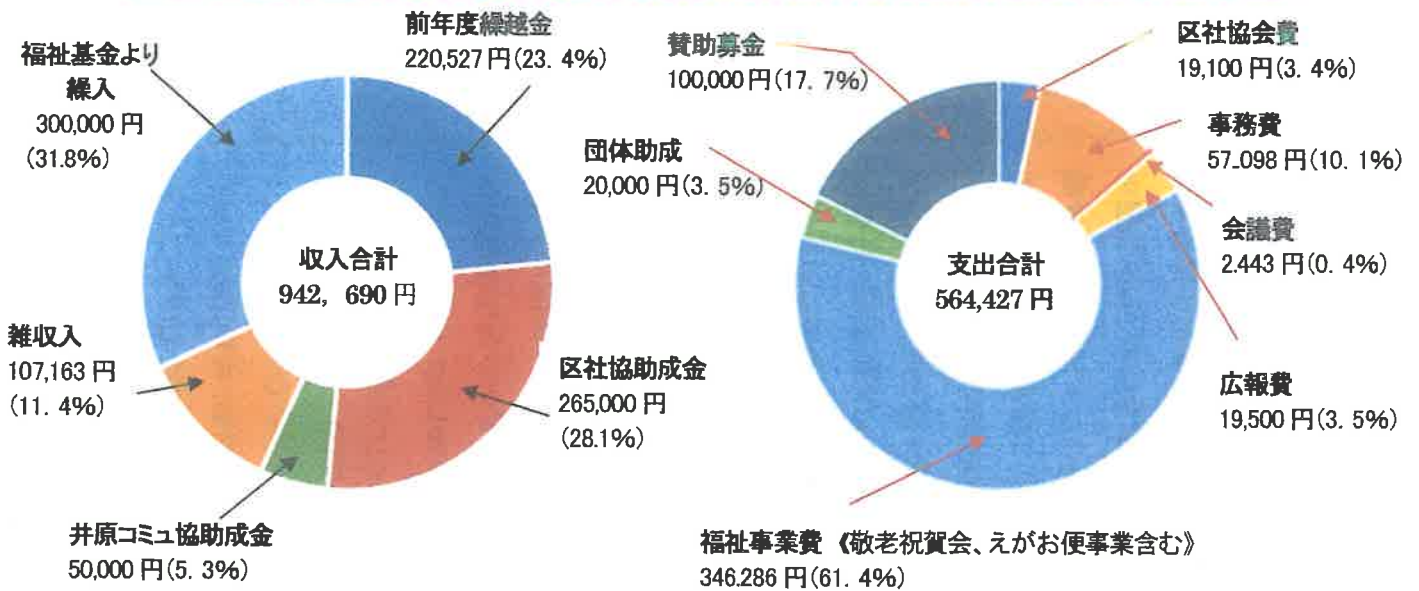


令和2年度 収支決算報告

収入 広島市社協から、地域福祉関係団体へのコロナ対策応援金交付がありました。

支出 新型コロナウイルス感染防止のため、予定していた主行事、会議を開催できず事業費の支出が殆どできませんでした。



令和2年度 事業報告

・往復ハガキえがお便による
高齢者の安否確認
年10便 対象者19名

・福祉研修会 中止

・敬老祝賀会 中止
80歳・85歳・90歳
27名 記念品授与

・一人暮らし高齢者の集い
該当者77名贈答品贈与

・白木いづみこども園
卒園児 お祝品贈与

・つくし会・えくぼ会 各1回
母子会ふれあい会 3回開催

・ボランティア登録者名簿更新
63名から14名に

・福祉のまちづくりプラン
(第2次)作成し実行

・広報紙「社協いばら」の発行
8月、10月、1月 各550部

・あんしんネットワーク
11月に6ブロック開催

・いきいきサロン連絡会開催



会長就任の挨拶

井原地区社会福祉協議会

会長 末田 良陽

この度、沼崎洋三前会長の後任として、井原地区社会福祉協議会会長に就任しました末田良陽です。若輩ではありますが、井原地区の社会福祉の向上に努力する覚悟でありますのでよろしくお願いいたします。

これまで、約9年間社協の会長として、井原のまちづくりのためにご尽力された沼崎前会長はじめ、長年社協の役員として会長を支えてこられた方々に、敬意を表すると共に感謝申し上げます。さて、ご存知のように昨年の1月から現在に至るまで、日本のみならず世界中に新型コロナウイルスの感染が広まり、我々の生活は大きく変わりました。

東京オリンピック・パラリンピックは言うまでもなく、経済への影響は計り知れないものがあります。井原地区社会福祉協議会としても、例年実施していた敬老祝賀会をはじめ、多くの行事を中止せざるを得ませんでした。一日も早く世の中が安定し、安全で安心した生活が出来るようになることを願わずにはられません。

ところで、皆様にとって井原はどんな町だと感じられておられるでしょうか。井原で65歳以上の高齢者が占める割合（高齢化率）が、まもなく50%に達すると見られ、まさに限界集落（集落としての機能が果たせない集落）と言われる状態になるのではないかと心配されます。こういう現状の中でわたしたちが、安全かつ安心して暮らすには、行政や各種関係機関と連携してコミュニティづくりに取り組むことが重要であることは、言うまでもありませんが、一方では私たち住民自身が、日頃からまず隣・近所と連携を密にし、いざという時にお互いに助け合うという強い絆で結ばれた人間関係を築いておくことが、何よりも大切なことではないでしょうか。

幸いにも、今、井原には新しい息吹が芽生えつつあるように思います。一つは、井原の憩いの場として、「夢ひろば」を運営してこられた池岡さんご夫婦の長年の夢がかなって、障害者の方々のグループホーム「ようこそその家」がまもなく完

成するとお聞きしています。もう一つは、コミュニティが中心となって広島市の助成金を得て、大河南河川敷埋立地に、色々な団体が自由に利用できる「井原コミュニティセンターやまこうばしひろば」が、開設されたことです。

社協としても、これらの団体・施設と連携しながら、これまで取り組んできた事業や行事を検証し、井原のまちをより安全・安心で住み良いまちにするためになが出来るか、また何をしなければならぬかということ、しっかりと議論し、福祉のまちづくりに取り組みたいとかがえています。御協力よろしく願います。

（令和3年7月 推敲）

敬老祝賀会中止のお知らせ

見出しのとおり、本年も、コロナウイルス感染防止のため、中止とさせていただきますので、ご了承いただきますようお願いいたします。

八十歳・八十五歳・九十歳・九十五歳のかたには、記念品をお送りさせていただきました。今後の社協行事につきましても、コロナウイルス感染状況をみながら判断していきたいと思います。ご理解のほどお願いいたします。

社協事務局だより

令和3年度 社協役員

会長 末田 良陽

副会長 酒井 寛 (自治連代表)

副会長 堀元 大三郎 (民生委員代表)

副会長 中川 進 (福祉委員代表)

事務局 事務局長 飯田 実 (民生委員)

一般会計 金羽木 千春

特別会計 鳴谷 婦美子

監事 奥 秀信

監事 佐久間 和枝 (福祉委員)

地域福祉委員 飯田 実 (民生委員)

顧問 沼崎 洋三 (前会長)

引き続き、ご支援・御協力をよろしくお願いたします。

・社会福祉協議会会則改正

本年度より、総会の議決を経て会則の改正をしております。変更点を記載致します。

1. 理事の廃止

実際、活動歴なく、評議委員と重複していた。

2. 評議委員より、各自治会・町内会長削除

各自治会から福祉委員が評議委員にでている為。

3. 監査を監事に変更

監事として、会計を含め全般を監視する為。

・社協助成金団体の紹介

一昨年度より、当社協より、助成金を受けている団体から、紹介依頼及び会員募集がありましたので、掲示させていただきます。

井原将棋将合

平成29年、藤井聡太二冠が、当時最年少プロ棋士でデビューしてから(29)連勝という大記録！ 刺激を受けた私が、井原地区でも気軽に将棋の対局が出来る場所をと思い、石川弘司氏を名人として迎え、同好会を発足しました。(小学生含み約十人)

現在、コロナ禍ということもあり、活動場所(老人集会所)が利用できない時でも、顔見知りどうしのオンラインでの対局はできます。(スマホかパソコン利用で)将棋に興味ある方はもちろん、初心者も大歓迎、お気軽に問い合わせ下さい。

・会費 無料 (老若男女問わず)

・場所 井原老人集会所

・時間 毎週水曜日 18時より 20時

(オンライン対局は、時間設定なし)

連絡先 中村 勉

(090-6400-2252)

福祉の灯

井原地区社会福祉協議会に対し、左記の皆様から、多額のご寄付をいただきました。皆様地域福祉に対するご理解とご協力に厚くお礼を申し上げます、ここに報告いたします。

(令和3年1月～7月)

3月 山縣 昭二様 (故山縣 照夫様)

4月 中村 範昭様 (故中村アツ工様)

〈編集後記〉

今年も、総会を書面審議で決裁させていただきました。コロナ禍の流れは、なかなか止まりそうにありません。しかしながら、当社協は新会長を迎え、役員一同、心新たに、引き続き《話・輪・和 三つの「わ」で支え合うまち「いばら」》を一步づつ努力してつくっていきたいとおもいます。地域住民の方々のご協力・ご支援よろしくお願いたします。



特集

今回、井原ブランドを、地区内外に発信させて、地域の活性化に積極的に取り組んでおられる「井原わくわくプロジェクト」の代表中村勉さんのインタビューを組ませていただきました。

① 井原わくわくプロジェクト誕生経緯と今までの活動について

井原わくわくプロジェクトは平成二十九年に有志十二名で組織した地域団体です。その起源は平成二十六年八月豪雨の翌年にPTA・子ども会による『子ども避難訓練』の実施に端を発します。「こんな時だからこそ君達ができることを考えてみたらどうか。」とある方の言葉が発足のきっかけでした。当時企画の中心となった元PTA・子ども会の役職経験者がプロジェクトメンバーです。井原を愛し共にわくわくするイベントを企画実施することで、若者をはじめとする地域住民への活力向上や、地域の新たな魅力づくりに繋げることを目的として活動しています。これまでに

『井原どろりんピック』や『荒谷山夏の天体観測と星空キャンプ』、定期イベントとして『蛍cafe』『雲海cafe』などを実施しています。昨年度末には広島市より助成金をいただき、荒谷山へのルート看板や雲海PR看板、仮設トイレを設置しました。

② 今後の活動計画について

コロナ禍で集客イベントが開催しにくい現状ですが、蛍や雲海の発生状況などをネット発信により情報提供したり、地域の草刈り、ハング・パラグライダー等他団体と協力してイベントの開催も継続協議中です。また井原地区内のあちこちに貼らせてもらっている青色のポスター「空がいいね スカイスポーツと雲海の町」は、地元イメージ・啓発のために作りました。一方、継続的な活動資金を得るために、井原ブランドのオリジナルグッズも企画販売しています。現在は『雲海お守り』『いばらトートバッグ（下記写真参照）』を販売し、団体の活動資金と、井原の魅力をPRする費用や山を守る維持費に充てています。今後も引き続き、井原の魅力を発信し、井原の皆さんや井原に来てくれる方々にわくわくして頂けるような事をやっていきたいと考えています。

③ 井原の皆さんに伝えたいことについて

井原わくわくプロジェクトは、今日まで地域を支えてこられた皆様が尽力されている町づくりと歩む方向を同じくして、私たちも井原の魅力を再発見し、それを内外に広めていく活動をしたいと思っています。また、もっと地域に根ざしていけるように、PR活動の拡充や地域行事への協力をはかっています。どうか、井原には「わくわくプロジェクト」という団体があり、井原の為に何かしら頑張っているんだということを知っていただけたらと思います。是非、井原わくわくプロジェクトが企画するイベントに今後参加してみてください。皆さんでわくわくしましょう。

↓ 詳しくはこちらからホームページで確認を

